



熊野古道伊勢路・女鬼峠を歩く

多気郡多気町

五桂く相鹿瀬

伊勢神宮で参拝を終えた人々が現在の和歌山県に鎮座する熊野三山(熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社)をめざして歩いた巡礼の道は、熊野古道伊勢路と呼ばれます。参拝者は、田丸(度会郡玉城町)周辺で装束を変えて、旅立っていったのです。

この伊勢路には、幾多の峠道がありますが、田丸を出発して最初に越えるのが女鬼峠です。それほど険しい道ではありませんが、80数年前に「女鬼トンネル」が開通したため、いっしょに利用されなくなりました。

この荒廃した峠道を保全整備したのが、「熊野古道女鬼峠保存会」の皆さん。定期的な草刈りや倒木の除去などに汗を流すほか、地域の子どもたちに、峠周辺の歴史・文化を語り継ぐ活動をしています。

今回は、女鬼峠を中心に歩きます。かつて数多の巡礼者が踏みしめた祈りの道は、快適なハイキングコースへと変わり、温かく迎えてくれました。

取材・文：中村真由美



至玉城IC



今回の案内人は「熊野古道女鬼峠保存会」会長の森田篤さん。穏やかで的確な話からは、地域への深い愛情と誇りが伝わりました。



相鹿瀬地区から清流・宮川を望む



「五桂池ふるさと村」から 栃ヶ池へ

今回のハイキングの起点・終点は「五桂池ふるさと村」です。同村は、ため池では県下一の貯水量を誇る五桂池周囲に整備された複合レジャー施設。宿泊可能なファミリーロッジがあるほか、バーベキューやイチゴ・柿・みかん狩りが楽しめるなど、家族や友人と楽しい時間を過ごせます。

この日は「花と動物ふれあい広場」近くの駐車場に車を止めて出発。すると、「女鬼峠ウォーキングコース」と記された

案内板に気付きました。「今日はこのコースを中心に歩きましょう」との案内で、まずは東へ進みます。しばらくすると、再び池が出現。栃ヶ池です。周辺にはクチナシをはじめとして、ウキシバ・ミズトラノオなどの湿地性植物が自生し、「栃ヶ池湿地植物群落」として、県の天然記念物に指定されています。

「ここは春の山桜、秋の紅葉も見事ですよ」と教わりながら、池の東端まで歩くと、「ようこそ！熊野古道女鬼峠へ！」の幟が目にとまりました。はたためく幟に導かれて細道へと入ります。途中で、日本の野生ナシの一種であるマメナシの

木を見て、伊勢自動車道の下を通った後、少し歩くと、女鬼峠の成川側入口を示す看板が見えてきました。いよいよ、峠道へと足を踏み入れます。

先人たちの汗と祈りが 刻まれた峠道

女鬼峠の名前の由来は諸説ありますが、江戸時代の文献には「子ギ峠」と書かれたものがあります。「伊勢神宮や瀧原宮の禰宜(神職)が往来したことから名前が付いて、その後変わったのかもしれない」と教わりながら、荷車の轍の跡などを進みます。20分程度歩くと茶屋



江戸時代に造成された五桂池



栃ヶ池



女鬼峠(成川側入口)看板



荷車の轍跡



峠の頂にある切り通し

跡に到着。ここから右側へ進むと、姿を現すのが切り通しです。千枚岩の岩盤を掘り割って道を通したため、岩肌がギザギザとした状態。先人たちの苦勞が偲ばれます。

切り通しから一旦、茶屋跡まで戻り、今度は展望台めざして左へ進みます。道は急な上りになり、少しの間、登山気分を味わえます。すると、木々の間から家並みや宮川の流れを望むことができました。気分は爽快です。この展望台ルートは、「熊野古道女鬼峠保存会」の



展望台からの眺望

皆さんが、来訪者をもてなすために整備したものと伺いました。

展望台からは階段を下り、先に進むと、小堂と「南無阿弥陀仏」と刻まれた六字名号碑が目に留まりました。小堂の中と隣には如意輪観音像が祀られています。巡礼者たちは、ここで一休みして、旅の安全を祈願したことでしょう。現在は、同保存会が設置した箱の中に「来訪者記帳簿」があり、静かで気持ちいい整備されていて歩きやすいなどの感想が綴られていました。



2体の如意輪観音像と六字名号碑

地域のために命を捧げた 浄保法師

2体の如意輪観音像と名号碑に手を合わせた後、歩くこと約15分で、視界が開けてきました。このあたり一帯には、奈良時代に伊勢神宮により、唯一創建された太神宮寺逢鹿瀬寺があったと伝わり、古代の瓦などが出土しています。今では、茶畑などが広がる中を進むと、峠の相鹿瀬側の入口を示す看板が見えてきました。隣には大きな道標も立っています。



高さ約1.5メートルの地藏尊

案内板から南へ向かえば、清流・宮川の流れを一望するスポットがありますが、今回は南西へと進みます。「相鹿瀬公民館」でトイレ休憩した後、集落内を歩くと、姿を現すのが多気町で最も大きな地藏尊です。貞享5(1688)年に刻まれた文字が読み取れます。330年以上もの間、ここで道行く人々を見守り続けてくれているのです。

地藏尊から数分歩き、県道709号と合流した地点のすぐ先、階段の上にたたずむのが、浄保法師の五輪塔です。ここで、森田さんが紙芝居を披露してくれました。



紙芝居を披露する森田さん

宮川の流れを見下ろす高台にある五輪塔に別れを告げた後は、北へと向きを変え、終点の「五桂池ふるさと村」へと帰りますが、ここで案内されたのは、中女鬼峠を越えるルートです。この峠道は、女鬼峠より西側に位置し、かつては、多気町の佐奈周辺地域と、相鹿



浄保法師の五輪塔

それによれば、浄保法師とは相鹿瀬出身の修行僧で、災害や疫病に苦しむ故郷の人々を救うため、自ら掘った穴の中で、命尽きるまで念仏を唱え続けたといえます。人々は、法師の遺徳をたたえるために五輪塔を建て、今も大切に守り続けているのです。



中女鬼峠と名号碑

瀬周辺や大台町の人々を結ぶ生活道路でした。地域の観音参詣道でもあったことから、今も頂上付近には名号碑がひっそりとたたずんでいます。



中女鬼峠入口からは、およそ30分で「五桂池ふるさと村」に到着。「ふるさと食堂」(毎週火曜日定休)で食事休憩したり、「マルシェグランマ」(毎月第2火曜日定休)で地域の農産物などを購入すれば、旅の思い出がさらに充実したものになることでしょう。

問 多気町農工商工課

(熊野古道女鬼峠保存会事務局)

TEL 05998-3811117